

横浜市立西本郷小学校 学校だより 令和5年2月24日(金)
一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

ふしぎのたね

校長 活田 宏輔

朝の気温が氷点下を記録することが何度かあった今年の冬ですが、あたたかい風の中に、ふと春を感じられるようになりました。

学校だより4月号で子どもたちに「ふしぎのたね」の話をしたことを書きました。『日常の中で感じる「ふしぎのたね」をたくさん見つけて、大切に育てましょう』と声をかけた以上、大人も実践しなければ説得力がありません。この1年、不思議だなと思ったものを校長室前に置いたり、校長先生クイズにしたりしました。

4月、「校庭の周りの長さは？」とクイズを出し、答えは自分の足で見つけるようにしました。朝会で江戸時代の伊能忠敬の歩測を紹介したのです。すると多くの子どもが休み時間に校庭に出て歩測に挑戦しました。自分の一步の長さを測り、校庭1週の歩数をかけ算しました。校庭は計算の跡だらけ…授業でかけ算を習ったかどうかは関係なくみんな必死でした。

5月、「旬」という言葉を教えたくて、掘りたての長い筍を校長室前におきました。1週間ほどすると筍が変化してきます。皮がゆっくりゆっくりはがれていくのです。「昔の人は筍の皮を何に利用したでしょう？」の問いに「ジブリの映画で観た。おにぎりを包むんだよね。」と答えた子は「千と千尋の神隠し」のワンシーンを実生活と結び付けました。

最近のエピソードは氷です。氷点下の予報が出ていた前日に仕掛けたバケツの水が凍ると、子どもたちは大喜びで古代の鏡のような円形の氷を手に取りました。氷点下は次の日も続き、みんな朝の氷を楽しみに登校しました。何日か後の氷点下の朝、多くの子どもが「今日は凍ってないと思う。」と言いました。「いつもよりちょっとだけあたたかい。」と。実は横浜で氷点下を記録したその朝に、西本小では、氷はできていませんでした。子どもたちの感覚の鋭さに私は驚かされました。

私が提示したものはやっぱり「たね」で、たねは子どもたちが大きく育てていくことを実感した1年間でした。これからもふしぎのたねをいっぱい蒔いて、子どもたちと大きく育てていきたいと思えます。



高速カラー印刷機を導入しました。カラー印刷のコストが下がり、白黒印刷とカラー印刷が同額でできるようになりましたので、今月号よりカラー印刷で配付いたします。